



発行所 岡山県立笠岡高等学校 同窓会 岡山県笠岡市笠岡3073の2 事務局 0865 (62) 5128 印刷 正文社印刷所

「伝統と革新」令和元年同窓会

同窓会会長 浅野和志



千鳥会の皆様には、日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。笠岡高校同窓会千鳥会会長を拝命いたしております昭和五十七年卒の浅野和志です。

明治三十五年創立以来、大正、昭和、平成、そして令和と百十八年の伝統を積み重ねてきた母校千鳥。ここ数年、難関大学への合格者数も年々増加し、部活動でも体育会系、文化系問わず中国大会出場など文武両道。制服も一新。専門講師を招いた講義や直接企業訪問をする授業を設けるなど、手のひらのスマホを検索して簡単に得られる情報からの知識と、実際に自分で体験して得た知識とでは大きな差があることを自ら学ぶ素晴らしい総合的な学習にも取り組まれています。鳥越校長のもと伝統ある母校千鳥は今、常に新しいことに挑戦し革新を続けています。

統ある歌舞伎、和菓子づくりや酒造りにしても、ずっと昔から同じことを繰り返すのでなく、今の時代に至るまで良いことは「伝承」しつつ、一方では様々な「革新」をしてきたことで「伝統」を築いています。「伝承」だけでは「伝統」にはなりません。まさに「伝統とは革新の連続」です。

校長自ら先頭に立ち、少子化による生徒数減少という課題にも取り組まれています。決して焦ることなく、いろいろな革新を地道に続けて実績を重ねていけば、イソップ物語の「北風と太陽」のごとく、必ず生徒の方から自然に千鳥に集まって来てくれるはず。同窓生一同、母校千鳥を陰ながら応援していきましよう。

同窓会千鳥会でも、先輩方が築いてこられた素晴らしい「当番年度制」などは伝承しつつ、毎年の総会に当番年度以外の参加者も増やすべく、同窓生の多い企業や職域にお声掛けしたり、広報活動や総会内容の見直し、開催日程の検討など、皆さんの貴重なご意見をもとに小さな「革新」を続け



校長 鳥越信行

「あいさつ」

千鳥会の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。笠岡高校は今年度で創立百十八年目を迎えました。長い歴史と伝統により培われた自由な校風の中、子どもたちは真摯に文武一道に励んでいます。その姿は、岡山県南西部の普通科進学校としての進学実績や、書道部の全国総合文化祭への参加、陸上競技部・山岳部の中国大会出場等、部活動の素晴らしい成果にも表れています。

昨年度、本校は二十五年ぶりに学校教育目標を改定しました。新たな目標は「志高く自らの人生と社会の未来を拓く人を育てる」です。千鳥の生徒には、自分のこととはもとより、自分たちを取り巻く社会の未来についてもしっかりと学び、社会と自らの生き方を関連づけて考え、高い志を立ててもらいたいと考えています。そしてその目標を実現するため、現在、学校全体で体系的なキャリア教育に取り組んでいます。大学の向こう側にある社会を知り、自分の進路を拓く学びを深め、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し、新しい価値を創造できる人になってほしい。そのために必要となる能力や態度、「未来開拓力」の育成を本校は目指しています。昨年度は新たに「企業訪問」を始め、地の元卒業生の方々にも大変お世話になりました。さらに、本年度入学生より、進学重視型単位制に移行しました。制度の移行による教員の加配制度を利用しながら、新しい大学入試に対応し、生徒一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな教育活動を行う新カリキュラム、「未来開拓型カリキュラム」をスタートさせています。

来を拓く人を育てる」です。千鳥の生徒には、自分のこととはもとより、自分たちを取り巻く社会の未来についてもしっかりと学び、社会と自らの生き方を関連づけて考え、高い志を立ててもらいたいと考えています。そしてその目標を実現するため、現在、学校全体で体系的なキャリア教育に取り組んでいます。大学の向こう側にある社会を知り、自分の進路を拓く学びを深め、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し、新しい価値を創造できる人になってほしい。そのために必要となる能力や態度、「未来開拓力」の育成を本校は目指しています。昨年度は新たに「企業訪問」を始め、地の元卒業生の方々にも大変お世話になりました。さらに、本年度入学生より、進学重視型単位制に移行しました。制度の移行による教員の加配制度を利用しながら、新しい大学入試に対応し、生徒一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな教育活動を行う新カリキュラム、「未来開拓型カリキュラム」をスタートさせています。

笠岡高校独自の教科や科目を設定し、英語コミュニケーション能力や知識・技能を活用した思考・判断・表現力を養成します。また、個々の力に応じた少人数によるきめ細かく丁寧な授業で、一人ひとりの学力を伸ばします。さらに、芸術系や体育系、生活系など進路に応じた多彩な選択科目があり、主体的な学習を行うことが可能です。そして校外にとびだし、社会とつな

東京支部総会報告

「令和元年東京千鳥会同窓会を終えて」

平成元年卒

近藤 京子

「とうとう、私達に順番が回ってきてしまった。」というのが、昨年の同窓会直後の率直な感想であった。

私は兄弟ともに笠岡高校出身で東京在住だったことから、何度か同窓会を手伝っており、幹事の大変さは重々知っていたことから、すぐに東京在住の同級生を探した。

連絡を取り合っていた同級生から、東京の大学に進学した人、東京に就職・転職になった人の消息を得て、連絡先がわからなければ、彼らの実家に連絡し、本人の連絡先を教えてくださいました。そうしてようやく平成元年卒業の十名程が集まった。皆仕事や子育てに忙しく、全員が一度に顔を合わせることは難しかったが、各々が担当の仕事を進め、SNSで相談や状況報告を行った。また、先輩方の経験に基づいたアドバイスや

サポートは、同窓会ならではの温かさに満ちており、大変助けられた。同窓会当日は多くの同窓生がご参加くださり、大変盛況であった。また遠路はるばるお越しくださった佐守先生・中島先生とも話は尽きず、時間があっという間に過ぎてしまった。平成元年に高校を卒業し、進学・就職・結婚・出産など人生の節目を経て、令和元年の同窓会を無事終えることができた今は、大変さを遥かに上回る達成感に浸っている。来年、いや次の元号になっても今回以上の盛況が続くよう、後輩をサポートしていきたいと思っ

ている。

近畿支部総会報告

昭和五十二年卒

山田 信湖

新しい年号「令和」の時代に入りました。昨年九月三十日に、平成最後の近畿支部総会をホテル阪神にて開催する予定でしたが、大型台風接近のため、残念ながら中止することとなりました。

思えば平成の時代は、災害に見舞われることが多い時代でした。特に昨年の近畿は、六月の地震、七月の豪雨、そして九月の二回の大型台風と自然災害が続きました。総会に向けては、多くの方々からご出席のお返事をいただきました。総会で使用する機材やビンゴの景品等を会場のホテル阪神に運び、総会で懐かしい故郷の方々にお会いすることを楽しみにしていただけに、誠に残念でした。(ビンゴの景品は、笠岡市社会福祉協議会に送り、フードバンクに寄付しました。)

今回、当番学年の私たちが幹事をするにあたり、数十年前ぶりに同期数名が集まりました。準備作業中は、懐かしい高校時代の呼び名で、当時のことや現在の状況など、話が弾みました。また、役員さんとは、世代や出身地域が違っても同じ笠岡出身ということですので打ち解けることができ、貴重な時間を過ごすことができました。

新しい時代最初の総会は、同じ会場で九月一日に開催する予定です。今年こそ！無事に開催できることをお祈りしています。

また、友人の声かけで合唱部に出会えた。みんなで歌うことは楽しかった。そしてコンクール出場に向けての練習には力が入り部員みんなで頑張った。他校との交流も楽しい行事だった。少しづつ友達とのつながりができ、元気をもらった。短大を卒業して就職した昭和五十三年には笠岡保育所勤務となった。笠岡保育所では短大生や高校生の実習を受け入れていた。笠岡高校の生徒と子どもたちの交流もあり、一緒に活動していた。子どもたちは元気な声ではしゃぐ姿が、生徒は一生懸命取り組んでおり、戸惑う姿もあるが生き生きしていた。また、体育祭終了後は、人気のアニメで大きなバック絵を持ってきてくれて、保育所の運動会で飾った。子どもたちや保護者、保育者にも心に残った。平成十二年に再び笠岡保育所勤務となり、笠岡生との交流は続いた。出会ったご縁に感謝します。

縁に感謝 昭和四十一年卒 山本 道江

千鳥今昔物語 昭和五十一年卒 高田 早人

ちと同じ制服は現三年生の  
み着用している。

私は平成五年度から十三  
年間、教諭として勤務した。  
生徒数が一番多い時は普通  
科八クラス、家政科一クラ  
スの大所帯であったが、人  
口減少で仕方ないとはいえ  
空き教室が多いのは寂しい。  
私たちの頃の千鳥は普通  
科五クラス、家政科二クラ  
スであった。同級生は優秀  
で岡大合格五〇人、国公立  
大は二〇人が合格したの  
である。先生方も熱心で学  
習習慣を身につけさせるた  
め、予習・復習は当然とし  
て課題や参考書・考査が多  
かったと記憶している。

ただ勉強ばかりという訳  
ではなく、楽しい行事も多  
かった。みろくの里での宿  
泊研修、一日バス旅行、希  
望者による大山キャンプ、  
信州・関東への修学旅行、  
年に三回の球技大会と楽し  
い思い出として記憶に残っ  
ている。

昔も今も変わらないのが、  
千鳥の生徒は、目標に向か  
って真面目に努力を惜しま  
ない点である。行事に対  
しても部活動に対しても熱心  
に取り組むということであ  
る。一〇年以上続く伝統  
校のプライドである。昭和  
から平成、令和となっても  
良き伝統は継続してもらい  
たいものである。

### 母校への思い

昭和六十一年卒  
才野 雅史

平成二年の春から岡山県  
の公立高校教員となり、平  
成六年から十三年間矢掛高  
校に勤務し、平成十九年に  
井原高校に転動してから十  
三年目を迎えた。どちらの

学校にとつても、笠岡高校  
は同じ地区の普通科の牙城  
として聳え立つ、羨望の対  
象としての存在であり続け  
ている。常に目標・ライバ  
ルとしてその背中を追い続  
けながら、一方では自身が  
卒業生であることに誇りも  
感じている。

しかしながら、昨今の急  
激な少子化の進行は西備地  
区にも深刻な影響をもたら  
しつつあり、私学の台頭も  
相まって、母校を取り巻く  
環境はまさに激変期を迎え  
ようとしている。

志願者の減少などに対処  
すべく、おそらく多くの家  
庭で三世代にわたって変わ  
らなかつた懐かしい制服が  
ついに変更されたことは、  
少し寂しい気持ちにもなる  
が、やむを得ないことなの  
かもしれない。しかしなが  
ら、遠くに海の見渡せる  
「千鳥が丘」の校舎で、素  
朴な生徒たちが一生懸命に  
勉強や部活動に取り組む風  
情だけは、令和の時代にな  
ってもいつまでも変わらな  
いで欲しいと、昭和の卒業  
生として切に願う。

### 縁を大切に

平成元年卒  
森田 美和

昨年度発行の「千鳥会  
報」に、とても懐かしいお  
二人の先輩の名前を見つけ  
ました。  
県外の大学に入学して間  
もない頃、あるサークルの  
勧誘で声をかけてきた人に

笠岡出身であることを話す  
と、「友だちに笠岡出身の  
人がいる！」と、すぐにそ  
のお友達に引き合わせてく  
れました。その方は何と、  
笠岡高校の一年先輩。その  
後、卒業までとても親切に  
していただきました。もう  
お一人は就職したばかりの  
頃にご縁をいただき、お世  
話になった大先輩の先生。  
仕事のことも人生の楽しみ  
方など、たくさんのお話を  
教えていただきました。

人生の折り返し地点に來  
て、たくさんの人とのご縁  
が何にも代えられない財産  
であり、そのご縁に支えら  
れて生きてきたことに気づ  
きます。この笠岡高校でい  
ただいたご縁も色々なところ  
に繋がって、今の私を支  
えてくれています。

AIをはじめとする様々  
な技術が進歩し、人と人の  
つながりが希薄になったと  
いわれる社会の中で、AI  
に不可能な、最も価値ある  
ものはこうした人と人のつ  
ながりの力ではないでしょ  
うか。笠岡高校の同窓生と  
して、これからも多くの先  
輩に助けていただきながら  
そして後輩の皆さんのため  
に何かできることがあれば  
…。縁を大切に過ごしてい  
きたいと思えます。

### 不易と流行

平成十一年卒業  
坂口 裕美

令和という新しい時代が  
始まった今年度から、千鳥  
では『進学重視型単位制』  
を導入し、新カリキュラム  
がスタートしたと聞きまし  
た。そこでふと、『不易と  
流行』という言葉思い出  
しました。不変の本質的な

ものを忘れず、新しい変化  
に対応していくことで『良  
いものを造り続けることが  
できる』のだと思えます。  
備西地区の普通科拠点校と  
して伝統の教育を継承しな  
がらも、時代の流れを捉え  
た取り組みにより進化して  
いく母校。そのさらなる発  
展を、卒業生として陰なが  
ら応援しています。

また、制服にも変化があ  
り、新制服導入二年目です  
ね。変更前に噂を聞きつけ  
た際は、高校時代の友人や  
同窓の同僚との会話で盛り  
上がりました。あの思い出  
の制服がいよいよ変わるの  
か…。新制服は男女とも  
かなりイメージが刷新され  
さらに女子はストラップも  
選べるようになり、時代の  
ニーズに即してよく考えら  
れていると感じます。防寒  
や防犯だけでなく、性の多  
様化への配慮も感じられ素  
晴らしいです。今後は街で  
在校生を見かけても、懐か  
しのあの制服ではないのは  
少しだけ寂しい気もします  
が、後輩達が自分のニーズ  
に合わせた制服を選ぶこと  
ができるのは喜ばしいです。  
千鳥の変わりゆく部分も、  
変わらない部分も、ずっと  
応援していきたいと思っ  
ています。

一生の思い出  
平成二十一年卒  
奥野 彩乃  
(旧姓・広末)

昨年、高校時代の友人が  
結婚式を挙げました。その  
際、余興を頼まれ、当時の  
友達と久々に千鳥坂を訪れ  
ました。当時と変わらな  
く、咲き、気持ちの良い景色  
でした。一つ寂しかったこ  
とが、学食がなくなってい

たことでした。昼休みに友  
達と他愛もない話をして盛  
り上がったことを昨日  
のことのように思い出しま  
す。  
あつという間の三年間、  
千鳥での出会い、経験は私  
の一生の宝物です。部活の  
練習と予習復習に追われる  
中、刺激し助け合ってきた  
友達とは、いつ会っても当  
時のまま話に花が咲きます  
千鳥祭ではある先輩と出  
会いがあり、現在では彼と結  
婚し、二人の男の子を授か  
ることができました。いつ  
どこで何のきっかけがある  
かわかりません。私は千鳥  
での出会い、経験に感謝し  
ています。

今、まさに高校生活を送  
っている後輩達には、この  
三年間を大切に過ごして  
もらいたいです。そして今後  
一生付き合っていくであ  
らう友達、パートナーの出  
会いを大切に、最高の思  
い出を作ってもらいたいと思  
います。  
最後に、私たちの子ども  
にも、私たちがどこでどの  
ように出会って結婚したの  
かを伝えるためにも、今後  
の千鳥の発展の一助とな  
れるよう頑張ります。

### 夢中になれるもの

平成三十一年卒  
清水 萌香

私は先日部活の後輩の試  
合を母校である千鳥に見  
に行きました。私は、小学  
校の頃からバスケットボー  
ルをしていて高校でもバス  
ケットボール部に入部しま  
した。朝早い電車に乗り体  
育館でシュートを打って  
から授業を受け、授業が  
終わってからすぐに体育館へ

部活をしてから帰るとい  
うのが私の日常でした。勉強  
と部活の両立は大変だと思  
う人が多いと思いますが、  
私は逆でした。部活で思  
っきり体を動かし、しんど  
い練習を共にする友達と話  
すことが勉強の糧になっ  
ていたと思います。高校二年  
生になり、私にもかわい  
い先輩ができました。バス  
ケットのことは何も分から  
ない初心者の子ばかりで  
した。しかし、先輩たちは分  
らないことがあると質問し  
たり、常に一生懸命でした。  
私自身後輩たちから学ぶこ  
ともたくさんありました。  
私は卒業してバスケットの  
練習に訪れました。そこ  
でも成長した後輩たちが  
いました。先日の引退試  
合でもみんな声を出して最  
後まで全力でプレーをする  
姿に感動しました。そして、  
後輩たちは何よりも楽しそ  
うにバスケットをしていま  
した。ここまで夢中にな  
れることに出会えた後輩た  
ちや私はとても幸せだと思  
います。自分の中で夢中にな  
れることをぜひ見つけてみ  
てください。そこで出会  
った人々はきっと自分にと  
って大切な存在になるはず  
です。

### 部活動報告 H30年度

- 陸上競技部 中国高校陸上競技大会 出場
- 山岳部 中国高校登山大会 出場
- サッカー部 岡山県高校サッカー 新人大会・ベスト8
- ソフトボール部 岡山県高校総体…ベスト8
- バドミントン部

### 平成30年度入試結果

- 岡山県高校総体 女子学校対抗…ベスト8
- 美術部 高梁川流域高校生 絵画展…会長賞
- ◎ 国公立大学
  - 東京2名、京都1名、大阪2名、名古屋2名、九州1名、東京工業1名、岡山26名(薬学部1名含む)、広島2名、鳥取5名、島根3名、山口4名、徳島1名、香川10名、愛媛11名、滋賀1名、九州工業1名、佐賀1名、兵庫県立2名、岡山県立4名、福山市立6名、下関市立4名など
- ◎ 私立大学
  - 早稲田2名、東京理科2名、中央3名、同志社5名、立命館13名、関西9名、関西学院9名、京都産業3名、龍谷4名、近畿7名、甲南3名、ノートルダム清心女子30名、就実27名、川崎医療福祉49名、広島修道5名、松山7名など
- ◎ 短期大学・専修学校
  - 合格者合計289名
  - ◎ 合格者合計106名

\*事務局よりお知らせ\*

## 「千鳥教育ボランティア」登録制度

「千鳥教育ボランティア」登録制度を新設しました。  
平素の教育活動に得意分野で参加していただければ助かります。

分野は ①キャリア教育関係のボランティア  
②部活動関係のボランティア  
③校内環境整備関係のボランティア

- ・登録方法やその他詳しい内容はホームページに掲載します。
- ・登録内容の有効期限は、毎年度末までで、毎年度再募集します。今年度の登録はできるだけ8月末日までをお願いします。
- ・ボランティアの依頼は、協力していただく日の1ヶ月程度前までに、登録の内容をもとに本校から連絡いたします。具体的な内容等については、個別に連絡・相談します。

本件問い合わせ先 岡山県立笠岡高等学校 主幹教諭 吉本良弘(地域連携担当)  
電話：0865-62-5128 メール：kasaoka@pref.okayama.jp  
本校ホームページ：http://www.kasaoka.okayama-c.ed.jp/